



魅力も課題も体感して ～砂丘ビジターセンター1周年～

通常のガイドツアー（随時受け付け）

ビジターセンター内と砂丘の2つのツアーがあります。インターネットからの事前予約が必要です。詳細はお問い合わせください。

■室内で楽しむガイドツアー

- 砂丘を歩く前にぜひ。
- コース／70分、45分、30分
- 料金／無料

■砂丘散策ガイドツアー

知らなかった砂丘の一面を発見。

- コース
120分、90分、60分、45分
- 料金
ガイド1人につき5,000円
(30人まで)
※高校生以下無料



☎ 山陰海岸国立公園 鳥取砂丘ビジターセンター

☎ 0857-22-0021 ☎ 0857-51-1038

<https://www.sakyu-vc.com/>



10月に開館1周年を迎える鳥取砂丘ビジターセンターで、11月4日までさまざまな催し（下表参照）を開催中です。来館をお待ちしています。

情報提供・観光案内の拠点である同センターは、展示や映像、ミニシアター、左記のガイドツアーなどにより、訪れる人に鳥取砂丘やその周辺の魅力を伝えています。

期間中は、通常のガイドツアーのほか、「今日のガイド」を10回ほど実施。これは、草花や虫、地形などその日のガイドの専門分野を中心に、参加者一人一人の「見たい・知りたい」に合わせて案内するもの。料金は一人500円、気軽に利用してみてください。

その他、砂丘の農業や世界的な問題の海のプラスチックごみに関する企画展、さらにSDGs（下記参照）を学ぶカードゲームも。大自然の美しさや魅力を感じつつも、現代社会が抱える課題を知り、考える良い機会です。

期間中の主な展示・イベント内容

■企画展示

八頭町出身の写真家・水本俊也さんみずもとしゆんやによる鳥取砂丘写真展、「鳥取砂丘の農業」企画展、砂丘海岸や山陰海岸に流れ着く海のプラスチックごみに関する企画展 など

■スタンプラリー（11月4日まで）

砂丘周辺の店舗や砂の美術館などを巡り、スタンプを集めて応募すると、抽選で景品が当たる。

■SDGsカードゲーム（10月20日）

「SDGs」とは、2030年までに持続可能な世界を実現するための国際社会の共通目標。貧困や飢餓をなくす、海や陸を守るなど17の目標で構成。目標達成のための2030年までの道のりを、カードゲームを通じて体験する。

※他にもさまざまな企画があります。詳細はウェブページで確認してください。

	▼10/10	▼10/20	▼10/31
展示	9/28～10/10 水本俊也写真展	10/12～11/4 鳥取砂丘の農業	
	9/28～11/4 海ごみってなんだ？海のプラスチックごみは何が問題なの？		
	9/28～11/4 麒麟獅子展		
	10/19～10/31 鳥取砂丘未来会議 パネル展示		
イベント	9/28～11/4 スタンプラリー		
	10/12 海ごみ調査隊「レジンペレットを探せ」（漂着したプラスチック製品の材料から環境を考える）★	10/26 麒麟獅子舞★★★	10/27 砂絵作家・吉村邦彦さんによる砂絵ワークショップ
	10/19 山陰海岸ジオパーク サンド&ストーンラリー（岩石標本づくり）	10/20 SDGsカードゲーム	



☎ 県庁緑豊かな自然課

☎ 0857-26-7200 ☎ 0857-26-7561 ✉ midori-shizen@pref.tottori.lg.jp

適量の消費・調理が大切 ～食品ロスを減らすひと工夫～

一人一人ができること

■買い物で

- 買い物前に冷蔵庫の食材を確認し、必要な分だけ買う。
- すぐに食べるものは賞味・消費期限間近なものを買う。

■調理・食事で

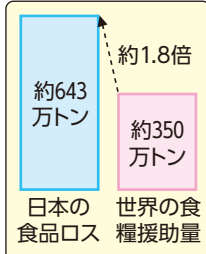
- 一度に食べきれないものは冷凍、または乾燥保存。
- 残っている食材から調理し、食べきれぬ量を作る。

■外食・宴会で

- 小盛り・ハーフサイズなど、食べられる分だけ注文する。
- 宴会開始後30分間は出来たての料理を楽しみ、終了前10分間は料理を残さず食べきる(おいしい!とっとり30・10食べきり運動)。

■「とっとり食べきり協力店」の利用

- 食品ロス削減に取り組む事業者を利用する。



まだ食べられるのに廃棄されている「食品ロス」。削減するには、「買い過ぎない」「作り過ぎない」など一人一人の工夫が大切です。

農林水産省や環境省の推計によると、2016(平成28)年度の日本の食品ロスは年間約643万トン。国民一人当たり茶わん約1杯分の食べ物を毎日捨てていることと同じです。これは同年度の世界の食糧援助量約350万トンの約1.8倍に相当します。

食品ロスは、食料を大量に生産、輸入する一方で大量廃棄する矛盾のほか、ごみ処理費用の増大、さらに温室効果ガス排出など、さまざまな問題も含んでいます。

県内には、食べ残り削減や、食材使い切りに取り組み飲食店や小売店など(「とっとり食べきり協力店」)が70店舗以上あります。こうした店の利用や、適量の消費・調理時の工夫などで捨てられる食品を減らしましょう。



問 県庁循環型社会推進課

☎0857-26-7198 F0857-26-7563

✉junkanshakai@pref.tottori.lg.jp

https://www.pref.tottori.lg.jp/tabekiri/



ドナーや雇用主の負担を軽減 ～骨髄提供助成、活用して～

骨髄ドナー提供支援金支給制度

	支給額	主な支給条件
ドナー	休暇1日につき、1万円(上限7万円)	検査や、骨髄の採取などのため、雇用主から有給・無給休暇を取得し、実際に骨髄などを提供したこと
雇用主	休暇1日につき、2万円(上限14万円)。ただし、ドナーが上記助成を利用した場合、その助成額を差し引く。	就業規則または労働協約にドナー休暇を規定し、その規定に基づき有給休暇を付与したこと

※詳細はウェブページをご覧ください。

ドナー登録できる人の条件

- 年齢 18歳以上54歳以下で、健康な人
- 体重 男性45kg以上、女性40kg以上



問 県庁医療政策課

☎0857-26-7207 F0857-21-3048

✉iryouseisaku@pref.tottori.lg.jp

https://www.pref.tottori.lg.jp/kotsuzui/



県は、骨髄(こつずい)や末梢血幹細胞(まっしょうけつかんさいぼう)を提供するため休暇を取得したドナーや、ドナーが安心して仕事を休める環境を整えた雇用主への助成制度を設けました。多くの命を救うため、ご活用ください。

骨髄移植を必要とする患者は、全国で毎年約2千人。移植には白血球の型の一致が必須で、非血縁者の中からドナーが見つかる確率は数百から数万分の1と低いため、多くの患者が適合するド

ナーを待ち望んでいます。一方で、ドナーは検査、入院などのため延べ8日ほど休まねばなりません。これまでは、適合者になり得ても、仕事を休めず、移植に至らないことがありました。このたび新設した制度は、貴重な骨髄提供の機会を確保する一助となるものです。

ドナー登録も随時受け付けています。助成制度や登録に関してご不明な点はお問い合わせください。